



issa

EXCELLENCE IN SOCIAL SECURITY

# 年次報告

2022年/2023年



新たな3年間の  
事業年度を迎えて



# 世界規模での 社会保障を 推進

## 使命

国際社会保障協会(ISSA)は、社会保障機関や政府の担当部門を繋ぐ、世界有数の国際組織です。社会正義に基づき、人々の社会的・経済的状況の改善を図ることを目指しています。

ISSAは、専門的なガイドラインの策定および能力開発、革新的なソリューションの提案、ナレッジやデータの共有、地域および国際的な代表者級イベントの開催、そして世界各国のパートナーとのエンゲージメントを通じて優れた社会保障を推進しています。

ISSAは、世界中の会員機関による優れた社会保障制度および政策の運用をサポートすべく、国際労働機関(ILO)後援のもと1927年に設立されました。



# 目次

## 記事

01. 世界社会保障フォーラム	10
02. 新たな3年間の事業年度、 新たなリーダーシップ	14
03. 2023～2025年のISSAの優先課題	16
04. 復旧力のある社会保障の構築	21
05. より充実した質の高い 保健医療と介護	23
06. 人工知能を賢く利用する	25
07. アフリカ地域社会保障フォーラム	31
08. ISSAディプロマコースおよび 修士課程コース	34
09. 予防とビジョンゼロに 積極的に取り組んだ1年間	36

## ISSAについて

- 使命.....	2
- 数字で見る 2022年/2023年 .....	4
- 会長メッセージ.....	6
- 事務総長インタビュー .....	8
- 世界のISSA .....	27
- グローバルな舞台におけるISSA .....	28
- ISSAの組織体制とガバナンス.....	38
- ISSAのナレッジ.....	39

# issa



## 数字で見る

2022年/2023年

---

**324**

会員機関

---

**300** 万人以上

会員機関の被用者

---

**163**

か国

---

**40** 億人以上

社会保険被保険者

---

**19**

地域組織

---

**8,700** 人以上

ISSAイベントに登録した会員

---

# 会長メッセージ

## 国際社会保障協会の会員、パートナー、友人の皆さま

先日、モロッコのマラケシュでの第39回ISSA評議員会において、ISSA会長に選任されるという栄誉にあずかりました。就任以降、ISSA事務局ならびにマルセロ・アブラミア・カエタノ事務総長、イサベル・サンセルニ副会長、ジャンマルク・バンデンバーグ会計役と緊密に協力して、当協会をより強固なものにするために全力を尽くしています。

ISSAの会員層はかつてないほど広がっています。これは、当協会が会員や社会にもたらしている価値の証です。私たちは力を合わせて、もっと強く、もっとインクルーシブに成長することを目指します。

また、2023年から2025年の期間の明確な優先課題を定めたISSAの事業予算案も、評議員会で承認されました。私たちは以下の取り組みに重点を置きます。

1. トランスフォーメーションとイノベーション
2. 社会保障の適用
3. ライフコースの変化に対応した社会的保護
4. 復旧力と持続可能性の支援
5. 革新的な資金調達メカニズムと持続可能な資金調達

既設の13の技術委員会と19の地域組織はISSA事務局とともに、自らの任務としてこれらの重点項目に取り組み、すべての会員に適切なナレッジを届け、機会を共有します。私自身も、数か国を個人的に訪問して、ステークホルダーを説得し、国内の社会保障の発展を強調しました。

これらの重点項目は、会員に周知するだけでなく、国際レベルおよび地域レベルで重要なパートナーと緊密に連携を行っている社会保障のグローバルプラットフォームにおいても共有していきます。国際労働機関(ILO)は今日も、ISSAの最も近いパートナーであり協力機関であります。

ILOのジルベール・F・ウングボ新事務局長にISSA会長として直接お目にかかりましたが、提唱されている「社会正義のためのグローバル連合」に対する氏の決意が伝わってきました。ISSAもこの重要な取り組みに対して完全な支援を表明しています。

この1年間では、G20での貢献を継続するとともに、世界保健機関(WHO)や経済協力開発機構(OECD)、アフリカ連合、欧州委員会、BRICS各国等、重要な機関やプラットフォームとの協力関係も強化してまいりました。

7月には実際、インドのインドールで開催されたG20労働雇用大臣会合において、ISSAを代表して発言するという絶好の機会に恵まれました。ISSAの努力もあって、20か国と招待国のすべてが、社会的保護のための持続可能な財政やプラットフォームワーカーとして働く人のための適切な社会的保護に関する主要なコミットメントに合意しました。

協調による成果として、2023年5月にコートジボワールで行われたアフリカ地域社会保障フォーラムにおいて、アフリカ連合とともに、政府代表者や国際機関によるサミットを共催したことが挙げられます。アフリカは、社会保障適用の拡大が現在最も必要とされている大陸であり、私はアフリカ連合がこの分野での政治的支援を強化しているのを目の当たりにしました。

私たちが日常的に緊密に連携している重要な組織やプラットフォームは他にもたくさんあります。すべての名前を挙げることはできませんが、心より御礼申し上げます。

また、昨年より新たな3年間の事業年度を迎えただけでなく、ポストパンデミックの時代に移行したことを喜ばしく思います。私たちはコロナ禍の新しい働き方やデジタルによる経験の共有方法を急いで身につけましたが、いま改めて、自らが移動して直接人と会えることの価値を実感しています。

新事業年度は始まったばかりですが、ISSAはイベントのスケジュールが目白押しです。

2024年末までのイベント主催予定: 地域フォーラム (南北アメリカ地域、アジア・太平洋地域、ヨーロッパ地域)、第23回労働安全衛生世界会議 2023、第21回 ISSA 数理・資金投資国際カンファレンス、第 17回 ISSA 社会保障におけるICT国際カンファレンス

ISSA会員は率先してイノベーションとグッドプラクティスを実践しており、業務にも ISSA ガイドラインを積極的に活用しています。ですから、世界フォーラムおよび地域フォーラム、国際会議、技術セミナーやワークショップを主催してくださる皆さまに深く感謝申し上げます。また、ISSAの地域組織のホスト機関の皆さま、各技術委員会、予防部門、部会の委員各位、そしてISSAとともにトレーニングやその他の活動を提供してくださっているパートナー機関の皆さまにも御礼を申し上げます。

私たちは単一の組織ではありません。皆が集結して鎖を形成することで、私たちが最も得意とすること、すなわちすべての人のために社会的保護を提唱し実践することをいっそう増進させています。ISSA がこのような唯一無二のコミュニティであるのは皆さま一人一人のご尽力のおかげです。直近の会合でお目にかかれることを楽しみにしております。

どうぞよろしく願いいたします。



**ISSA会長**  
モハメド・アズマン博士

### ISSA会長からのビデオメッセージ

[www.issa.int/ar-2022-23-president](http://www.issa.int/ar-2022-23-president)

# 事務総長インタビュー

## 社会保障運営への関心の高まり

2022年10月にブラジル出身のマルセロ・アピラミア・カエタノが事務総長として再選され、2期目を迎えました。ISSAが新たな3年間の事業年度を迎えるに当たり、今日の立ち位置と前途について語りました。

### 今日の社会保障の現状とISSAの役割をどのように捉えていますか。

ここ数年で私が目にした顕著な進展としては、社会保障の運用面が、国内レベルでも国際レベルでもますます重要になってきたという点です。社会保障の管理、実施、提供について議論する際に、以前よりもずっと早い段階で政策オプションと結びつけて論じられるようになりました。会員たちのナレッジと経験を足掛かりとして、ISSAは国際的なフォーラムにおいてこの視点を示しています。喜ばしいことに、社会保障機関は増加し続けており、現在では過去最高の163か国に会員を擁しています。

### ISSAにとって昨年はどのような年でしたか。

当然、ハイライトは2022年10月に開催された世界社会保障フォーラムでした。約3年に及んだ新型コロナウイルス感染症のパンデミックの後で、世界各国からの仲間たちとようやく対面で話し合い交流できたことは、すべての会員にとって強烈な瞬間でした。素晴らしい場を提供してくださったモロッコの主催者の皆さまには本当に感謝しております。そのわずか数か月後の2023年5月には、コートジボワールでのアフリカ地域社会保障フォーラムの開催に合わせて、新たな3年間の事業年度をスタートしました。ただし、ISSAは大きなイベントを開催しているだけでなく、社会保障運営を向上するためにナレッジやプロダクツ、サービスを創出する組織です。会員に提供できる内容をいっそう充実させるために、着実に歩みを進めていることを嬉しく思います。



事務総長

マルセロ・アピラミア・カエタノ



## ISSAが提供する新たな取り組みとしてはどのようなものがありますか。

世界社会保障フォーラムにおいて、2つのまったく新しいISSAガイドラインを発表しました。1つは人材管理に関するガイドライン、もう1つは社会保障サービスやシステムの継続性と復旧力に関するガイドラインです。新事業年度には、会員も大きな関心を寄せている介護に関するガイドラインを策定します。リハビリテーション作業部会の任務が延長され、新たに国際社会保障協定・情報交換部会を設置しました。また、ISSA会員間で革新的なソリューションを共創するためのISSAコラボラティブ・イノベーションハブ、フランスのパートナーと共同で提供する新しい国際的な修士課程のコース、社会保障の主要な分野に関するバーチャルの短期コースを実施する予定です。

## 3年間の事業年度終了時にISSAはどうなっているでしょうか。

将来は予見できませんが、社会がいかなる困難に直面しても、ISSAとその会員は主要な役割を担っていると確信しています。前事業年度が始まった2020年には、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)など聞いたこともありませんでした。しばらくして、社会保障こそがこの時代最大の課題を解決するカギとなりました。社会保障機関は驚異的な復旧力、機敏性、そして革新力を発揮しました。今日の社会的・経済的課題はこの先何年間も続き、今後想定外の展開も起こるでしょう。しかし、ISSAは会員の皆さまとともに、すべての人のための社会保障を推進するという使命に継続して取り組んでまいります。社会保障をいかに有効に管理するかが議題の中心となるでしょう。

# 01 世界社会保障フォーラム

ISSA の3年間の事業年度のハイライトは世界社会保障フォーラム (WSSF) であり、2022年10月24日から28日にモロッコのマラケシュで開催された今回のWSSFも盛会となりました。

## 数字で見るWSSF

<b>1,300</b> 人	<b>225</b> 人	<b>140</b>	<b>130</b>
の参加者	の登壇者	か国	セッション



## 復旧力のあるインクルーシブな社会のための社会保障

復旧力のあるインクルーシブな社会のための社会保障というテーマの下、140か国から1,300人を超える参加者が、不測の事態に見舞われた前事業年度における展開を振り返り、社会保障の未来のための教訓を討議しました。

今回のWSSFは、全世界の社会保障分野のリーダーと専門家が一堂に会し、つながり、交流できる3年ぶりの機会となりました。政策や運営に関するハイレベル協議、経験やグッドプラクティス、革新に関するプレゼンテーション、インタラクティブなアイデア共創セッションなどを組み合わせ、すべての参加者にとって強力かつ実り多い体験となりました。

WSSFでの論題となったのは、主要な発展を分析したISSAの報告書「社会保障の優先課題グローバル2022」でした。社会保障の運営、適用、高齢化、社会インクルージョン、そして2020年以降社会と社会保障に甚大な影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症などの重要課題に関する豊富なリソースが、初のISSA電子出版物によって手軽に利用できるようになりました。

WSSFでは、コロナ禍の期間に得た多くの学びが共有されました。このパンデミックによって、社会保障はかつてないほど議題に上がるようになりました。社会保障機関は目覚ましい復旧力を発揮し、事業継続性のみならず、迅速に規模を拡大し革新する能力を実証しました。新たな制度が導入され、これまでにないほど短期間で新たな層が制度の対象に含まれました。職員の能力とリソースの効果的な管理が極めて重要となり、ほぼ夜通し働き続ける方法を編み出さざるを得なかった体験から多くの学びがありました。世界各国の閣僚が一堂に会したサミットセッションでは、危機の時もそうでない時も、インクルーシブな社会にとって社会保障が重要な役割を果たすことが確認されました。

## イノベーションに焦点を当てて

イノベーションゾーンでは、33の少人数のインタラクティブのセッションにおいてISSAの会員がイノベーションを披露し、参加者は新たな技術や先進的なソリューションに没入して体験することができました。

ISSAコラボラティブ・イノベーションハブが公開され、革新的なプロジェクトの開発やイノベーション力の強化に共に取り組んでいくことを会員に呼びかけました。



これを機に、社会保障運営での人材管理に関するISSAガイドラインと、社会保障サービスとシステムの継続と復旧力に関するISSAガイドラインの策定にも拍車がかかりWSSFにおいて発表されました。これらは今後の社会保障を特徴づける項目であり、ISSAの2023～2025年の3年間の事業年度の優先課題、事業および活動に組み込まれています。またWSSFの期間中にISSA評議員会が開催され、新リーダーを選出するとともに、協会の2023～2025年の優先課題を採択しました。

2023～2025年のISSAの優先課題

WSSF 2022は、モハメッド6世モロッコ国王陛下による庇護のもと、開催されました。

主催機関：



## 優れた功績を表彰

世界社会保障フォーラムの130のセッションで披露、議論されたすべての優秀なグッドプラクティスおよび、ISSAガイドラインを見事に実践した会員機関に対して賞を授与するための特別な式典が行われました。認証プログラムの下で、9か国から、社会保障運営のさまざまな分野における功績をあげた社会保障機関10団体が受賞しました。2020～2022年の3年間の事業年度では、全部で30の優良賞が授与されました。

ヨアヒム・ブローアー-ISSA会長(右)とマルセロ・アピラミア・カエタノ事務総長(中央)、モロッコ預金運用基金(Caisse de Dépôt et de Gestion)カリッド・サフィール事務局長。これは6年間の任期を見事に果たしたブローアー博士の会長としての最後の任務であった。博士は退任後も引き続き自国ドイツにおいて国際的に社会保障を推進しており、ISSA名誉会長に選任された。



### アイスランドがISSA優秀事業賞を受賞

世界社会保障フォーラムでは、ジェンダー平等と社会保障において目覚ましい成果を上げたアイスランドにISSA社会保障優秀事業賞が授与されました。アイスランドは、社会保障がジェンダー平等の目標に確実に貢献するよう、首相府を中心に包括的、総合的なアプローチをとってきました。重要な成果としては、父親と母親への個別の育児休暇の付与、最低年金保証、同一労働同一賃金に取り組む企業の認定、社会的に弱い立場にある女性たちへの特別措置などがあります。



### 動画： 世界社会保障フォーラムを体験 してみよう

サマリー動画、ショートバージョン：



[www.issa.int/wssf2022/videos](http://www.issa.int/wssf2022/videos)



# 02 新たな3年間の 事業年度、新たな リーダーシップ

2022年10月にモロッコで開催された世界社会保障フォーラムにおいて、第39回ISSA評議員会は新事業年度のリーダーを選出しました。また、2023～2025年の事業予算案を採択し、ISSAの優先項目、プロダクトおよびサービスを決定しました。新副会長は、ISSA役員会により2023年6月に選出されました。



## 会長

マレーシア社会保障機構 (PERKESO) 理事長  
モハメド・アズマン博士

「ポストパンデミックの環境の中で  
ISSAの舵を取り、揺り籠から墓場まで、  
復旧力のある総合的な社会保障の適用を  
推進することが会長としての私のビジョンです」

### ISSA会長からのビデオメッセージ

[www.issa.int/ar-2022-23-president](http://www.issa.int/ar-2022-23-president)





## 副会長

フランス全国家族手当金庫 (CNAF) 理事長  
イサベル・サンセルニ

「私たちの社会と市民へ社会保障の重要性を促すために、ISSAならびに会員の皆さまとともに活動していきます。」



## 会計役

ベルギー国立雇用局 (ONEM) 総局長  
ジャンマルク・バンデンバーク

「当協会の予算と財務は良好に管理されています。一方で、世界の政治的、経済的不確実性を踏まえて、収入、支出、投資を注視し、警戒感をもって舵を取る必要があると考えます。」



## 事務総長 [再選 二期目]

マルセロ・アブラミア・カエタノ(ブラジル)

「会員の皆さまとともに、すべての人のための社会保障を推進するという使命に継続して取り組んでいきます。社会保障をいかに有効に管理するかが議題の中心となるでしょう。」

### 事務総長インタビュー

## 監査委員会委員

議長兼正監査委員

ドイツ年金保健組合 (DRV/Bund)  
法人サービス部財務部長  
ファビアン・プリゼッカー

「主な目標は、透明性、整合性および効率性の原則に基づき、金融規制や行政規則を確実に遵守することです。」

正監査委員

コスタリカ全国教職員組合年金退職委員会(JUPEMA)常務理事  
カルロス・ジェラルド・アリアス・アルバラド

リビア社会保障基金費用負担部部長  
アハメド・イムラガ・アブデルガデル・ブルガセム

副監査委員

チュニジア国家社会保障基金(CNSS)経理部長  
ゾフラ・ハナチ・ウエスラティ

# 03 2023~2025年のISSAの優先課題

ISSA評議員会は、2022年10月の世界社会保障フォーラムにおいて、2023~2025年のISSAの事業予算案を採択しました。ISSAの優先課題は、国連の持続可能な開発目標(SDGs)および社会保障に関するグローバルアジェンダに対応しています。





## 優先項目

本事業年度におけるISSAのナレッジ創出および諸活動は、4つの優先項目と1つの分野横断的課題に沿って実施されます。

<b>運営およびサービス提供におけるトランスフォーメーションとイノベーション</b>	<b>多様な労働人口への社会保障適用</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 社会保障の運営におけるトランスフォーメーションとイノベーションを成功させるための課題とそれをのりこえるための戦略</li> <li>- 人間中心の社会保障給付およびサービスを利用しやすく、データに基づいて積極的かつ高い質で提供するための要素と戦略</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 抛出し社会保障制度における適用困難集団への働きかけ拡大</li> <li>- 医療保険および失業保険の適用拡大</li> <li>- 適用レベル維持と、プラットフォームワーク等新たな職種の組み込み</li> <li>- すべての人への社会保障の適用</li> </ul>
<b>ライフコースの変化に対応した保護と支援</b>	<b>復旧力と持続可能性を支援する社会保障</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 変化する働き方、家族、人口動態の中で、いかに社会保障制度の目的を達成できるか</li> <li>- ますます柔軟で変則的になるキャリアや多様化する家族形態により、何度も過渡期を迎える人々をサポート</li> <li>- あらゆる年齢層の新たなニーズを満たし、人口高齢化に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 社会保障制度の復旧力を最適化するための主要要素</li> <li>- 危機の際の事業継続性、サービスの拡大および提供</li> <li>- 社会保障機関の能力とリスク管理アプローチ</li> <li>- 社会保障機関の危機への備えと連携</li> <li>- 社会保障による環境の持続可能性への貢献</li> </ul>
<b>分野横断的課題: 社会保障制度の革新的な資金調達メカニズムと持続可能な資金調達</b>	
資金調達のギャップ是正、適切な資金構成の特定、および社会保障制度の有効性と効率向上のための戦略	

## プロダクツおよびサービス

ISSAが2023～2025年の事業年度を迎えるに当たり、協会はナレッジの創出と分析に特に注力し、会員のネットワーク作りや交流のニーズに対応すべくイノベーションを進めます。新プロダクツやサービスの開発においては、社会保障運営における会員同士の協力、能力開発およびイノベーションの共創を促進し強化することに力を入れます。

<p><b>ISSAガイドラインおよびISSA認証</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 介護に関する新たなガイドラインの策定</li> <li>- 15のガイドラインの内、9セットの見直し、改訂</li> <li>- ガイドラインを裏付けるグッドプラクティスの分類およびアクセス向上</li> <li>- 新規:新規および改訂されたガイドラインのISSA認証プログラムを拡大</li> </ul>	<p><b>社会保障の分析、開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 4つの地域フォーラムおよび世界社会保障フォーラムの基幹報告書</li> <li>- 優先項目に関連する研究/分析に加え、ISSA技術委員会による報告書</li> <li>- 社会保障レビューの定期刊行に加え、優先項目に対応する特別号</li> </ul>
<p><b>コラボラティブ・イノベーションハブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 会員機関による革新的なプロジェクトの開発および恒久的なイノベーション力強化の支援</li> <li>- 革新的、即効的、実用的なソリューションをもたらす成果へのフォーカス</li> <li>- 関係組織、技術委員会、専門家との協力による会員支援および指導</li> </ul>	<p><b>カントリープロフィール</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 180の国と地域の社会保障プロフィールを掲載したオンラインデータベースの定期的な更新</li> <li>- カントリープロフィールの価値向上とユーザニーズへの対応力改善のためのデザイン変更プロジェクトの最終決定</li> <li>- ISSAウェブポータル上の情報およびデータへのアクセス改善</li> </ul>
<p><b>イベント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 数理・資金投資国際カンファレンス(2023)</li> <li>- ILO共催:労働安全衛生世界会議(2023)</li> <li>- 地域フォーラム:アフリカ地域フォーラム(2023)、南北アメリカ地域フォーラム(2023)、アジア太平洋地域フォーラム(2024)、ヨーロッパ地域フォーラム(2024)</li> <li>- ICT国際カンファレンス(2024)</li> <li>- リハビリ・障害管理世界 कांग्रेस(2024)</li> <li>- 新規:運営とイノベーション(2025)</li> <li>- 世界社会保障フォーラム(2025)</li> <li>- 技術セミナー、ウェビナー、ワークショップ</li> </ul>	<p><b>能力開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- EN35、ILOトレーニングセンター(ITCLO)、ムハンナ財団他とのパートナーシップによる、ISSAガイドラインのディプロマコース</li> <li>- 新規:要望に応じたトピックに関するISSAバーチャル短期コース</li> <li>- 新規:ボルドー政治学院およびフォーラム研究所(Egis社)とのパートナーシップによる、公共部門のパフォーマンス管理および国際的な社会保障の社会人向け修士課程コース</li> </ul>



### 新たなISSAコラボティブ・イノベーションハブ

社会保障機関はイノベーションの利用者ですが、独自でも優れた革新能力を持っています。新たなISSAコラボティブ・イノベーションハブは、社会保障の管理、運営、提供における課題を解決し克服するためのイノベーションの共創に向けて、ISSA会員が集結するための一つの手段です。

[www.issa.int/innovation](http://www.issa.int/innovation)



### グッドプラクティス賞とイノベーション特別賞

ISSAグッドプラクティス賞コンテストの一環として新設されたイノベーション特別賞は、機関、国または地域レベルで社会保障の目標を達成するための新たな手法を明らかにするような、有望なグッドプラクティスに焦点を当てることを目的としています。初めての特別賞は2023年のアフリカ地域社会保障フォーラムで授与されました。

[www.issa.int/gpa](http://www.issa.int/gpa)

## 各技術委員会とその活動計画

ISSAの13の技術委員会は、協会が新たなナレッジや成果物を創出する上でのブレインでもありエンジンでもあります。

2023～2025年の事業年度に、技術委員会はISSAガイドラインの更新と新規策定において重要な役割を担います。また、協会の優先項目に関連する技術報告書の作成、研究や分析、イノベーションプロジェクトへの貢献、会議やウェビナー、その他イベントの運営も行います。さらに、作業部会は分野横断的な優先項目に取り組み、国際予防部門は予防特別委員会をサポートします。

### 第17回ISSA技術委員会フォーラム

ISSAの技術委員会は、2023年3月7日から21日の日程でバーチャルフォーラムを開催しました。全体会議に加えて、すべての技術委員会が本事業年度の活動計画を策定するための個別会議を開催しました。活動計画は、2025年末までの活動の指針となります。



17th Forum for Technical Commissions

**TC FORUM 23**

Virtual / 7-21 March 2023  
Geneva, Switzerland

## ISSA技術委員会および特別委員会

- 保険料徴収・納付義務遵守
- 雇用政策・失業保険
- 家族手当
- 情報通信技術
- 労災保険
- 社会保障基金投資
- 医療・疾病保険
- 共済給付組合
- 老齢・障害・遺族年金
- 組織・管理・イノベーション
- 政策分析・研究
- 統計・数理・財政研究
- 予防特別委員会

[www.issa.int/tc](http://www.issa.int/tc)

## ISSA国際予防部門

- 農業
- 化学工業
- 建設業
- 予防・防災文化
- 教育・トレーニング
- 電気・ガス・水道
- 医療・衛生サービス情報
- 鉄鋼・金属産業
- 機械とシステムの安全性
- 鉱業
- 研究
- 貿易
- 交通・輸送

[www.issa.int/prevention-sections](http://www.issa.int/prevention-sections)

## 作業部会

- リハビリテーション
- 国際社会保障協定・情報交換

# 04 復旧力のある 社会保障の構築

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、復旧力のある社会を作る大切さに焦点が当てられました。復旧力のある社会保障はその重要な要素です。ISSAはこの課題についてナレッジの共有や考察を開始し、新型コロナウイルス感染症よりもはるか先を見据えた新たなガイドラインを策定しました。

## 復旧力のある社会保障へのカギ

社会保障機関の  
**能力**

サービスの  
**継続**

事業や制度を通じた  
**対応**

ISSAの会員は、コロナ禍に開催されたISSAのウェビナーやバーチャルイベントを通じて、社会保障機関の視点からパンデミックにどのように対処したかについて経験を共有しました。またこれを機に、新たに「社会保障サービスとシステムの継続と復旧力に関するISSAガイドライン」も策定され、2022年10月の世界社会保障フォーラムで発表されました。

社会保障において「復旧力がある」ということは単にサービスの継続性を確保する、あるいは不測の事態に堪えるというだけでなく、その先にある人々のニーズに迅速に対応する能力を備えていること、またはその能力を構築することを意味します。

新型コロナウイルス感染症といったショックや、それに続く社会的、経済的不安は、人的資源やICTリソース、事業プロセス、事業やサービスの提供体制など、あらゆるものを混乱に陥れる可能性があります。ISSAの新ガイドラインは、復旧力を確保し不測の事態に備える方法について、関連のする様々な側面を取り上げています。

「復旧力と持続可能性を支える社会保障」は2023～2025年の3年間の事業年度の4つの主要な優先課題の一つであり、WSSFのあと2023年上半期だけでもこの課題に特化したウェビナーをはじめ、ISSA南アフリカ連絡事務所が主催した技術セミナーやアフリカ地域社会保障フォーラムにおいても議論が続けられています。



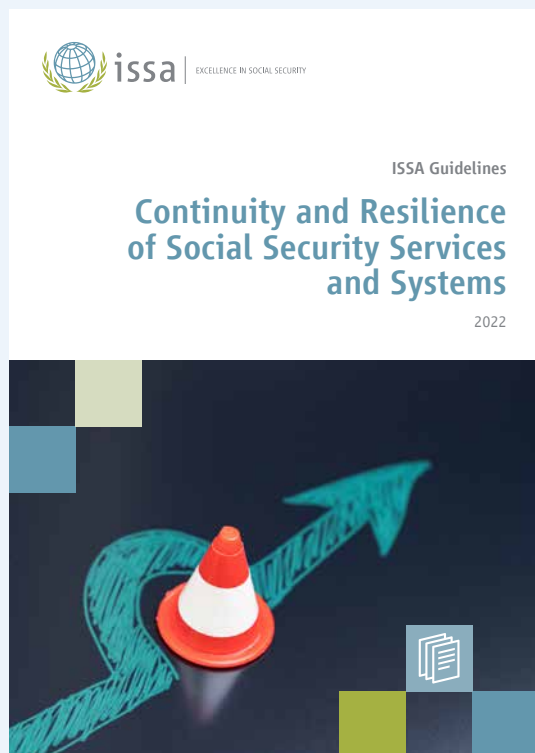
## アジア太平洋地域からの経験

2022年8月に、ISSAはアジア太平洋地域における復旧力のある社会保障のための事業継続性管理に関する分析を発表し、モルディブ、オマーン、サウジアラビアおよびアラブ首長国連邦の事例を紹介しました。

[www.issa.int/analysis](http://www.issa.int/analysis)

## ISSA新ガイドライン

「社会保障サービスとシステムの継続性と復旧力に関するISSAガイドライン」は、ISSA会員に役立つ貴重な助言や参考資料、経験を提供しています。



[www.issa.int/guidelines/cor](http://www.issa.int/guidelines/cor)

## デジタルレジリエンス

サイバーセキュリティとデジタル運用のレジリエンスも、別の側面で社会保障機関の復旧力に繋がります。ISSAは、2021年に「社会保障運営における保護能力とサイバーセキュリティとレジリエンスの強化」、2022年には「デジタル・オペレーショナル・レジリエンス：社会保障のデータと業務を保護するための戦略およびアプローチ」と題する報告書を発行しました。



### Digital operational resilience

Strategies and approaches  
to protect social security data and operations

INTERNATIONAL SOCIAL SECURITY ASSOCIATION



[www.issa.int/publications](http://www.issa.int/publications)

# 05 より充実した 質の高い保健医療 と介護

保健医療や介護サービスに対するニーズが高まっています。ISSAは、この分野におけるナレッジを構築しグッドプラクティスや経験を共有することを優先課題と決めました。これらについてさまざまな角度から研究を進めています。

## 保健医療

保健医療は国際的な優先課題となっており、ISSAはその動向を注視しています。人口の大部分に医療保険がまったく適用されていない国もあれば、適用が十分でない国や、未適用の人口群を有する国もあります。

保健医療分野におけるISSAの活動として、「適用拡大のための運営上のソリューションに関するISSAガイドライン」の改訂版に、医療保険の制度戦略に関する新たな章を挿入することを一つのマイルストーンとしており、2022年10月に発行されました。その後、医療・疾病保険技術委員会と協力し、ウェビナーシリーズにおいて、具体的な各国の事例や社会保障機関の経験を交えてこれらのガイドラインを解説しました。

このウェビナーシリーズでは、制度戦略とともに、予防、保健医療製品、持続可能な資金調達などの具体的な項目にも注目しました。昨年実施したウェビナー等では、デジタルイノベーション、eヘルス、より復旧力のある医療制度の構築、保健医療における環境保護などを取り上げました。気候変動が顕著になる中、環境の持続可能性は社会保障にとっても保健医療機関にとっても一層重要性を増してきます。

## 介護

人口の高齢化という課題が世界の全地域に広がるにつれて、介護も重要性を増していく分野の一つです。社会は、医療や保健サービスから日常生活の支援に至るまで、自立性の喪失により高齢者が必要とする多様なケアニーズの急増に備えています。一方、社会保障や医療制度はこうしたニーズに対応する上で重要な障害に直面しています。特に、断片化された制度や事業、労働力不足と非正規雇用、介護サービスの持続的な資金調達の必要性などの課題が挙げられます。

これは、将来あらゆる地域の社会保障機関が懸案する事項になることから、ISSAはナレッジを提供し、経験とグッドプラクティスの共有を促すことにより、継続して会員を支援していきます。2023年3月に開催されたISSA技術委員会フォーラムにおいて、保健医療、年金、雇用を始めとする分野横断的な視点から、介護のための運営上のソリューションに関するISSA 新ガイドラインを策定することが合意されました。

## ウェビナーシリーズ

昨年、ISSAは保健医療および介護に関するウェビナーシリーズを継続しました。

イノベーションに焦点を当て、デジタル化、代替医療の環境と労働力、医療保険における人工知能の活用を検討するウェビナーなどがありました。復旧力のある医療保険システムの構築も重要な課題であり、2023年初頭から医療保険の適用拡大に関する具体的なウェビナーシリーズを展開しました。

ウェビナーの録画はすべて、ISSAのウェブサイトで見ることができます。

[www.issa.int/webinars](http://www.issa.int/webinars)

## ISSAガイドライン

2022年10月にモロッコで開催された世界社会保障フォーラムにおいて、「適用拡大のための運営上のソリューションに関するISSAガイドライン」の改訂版が公表されました。これらのガイドラインには、「持続可能な医療保険適用の確保と国民全体の信頼構築のための規制戦略策定」という章が追加されました。また、2023年2月からのウェビナーシリーズでフォローアップを行いました。2023年には介護に関するISSA新ガイドラインの作成を開始し、2025年の発行を目指しています。

[www.issa.int/guidelines](http://www.issa.int/guidelines)

## ISSAとILOの共同刊行物

ISSAとILOは、政策と実施の両方の課題に対する総合的なアプローチに基づき、介護の課題を推進するために密接に連携しています。

2022年9月、ISSAとILOは『国際社会保障レビュー』特別号「高齢者のための介護における人権：社会保障事業の役割拡大」で、社会的保護の政策の役割に関する記事を発行しました。

2022年10月には、同じ著者らが共同研究成果報告書『人口の高齢化における介護：権利に基づいた普遍的な社会保障適用へのアプローチ』を発行しました。



[www.issa.int/publications](http://www.issa.int/publications)

## リハビリテーション作業部会

リハビリテーション作業部会の任務が延長され、2023～2025年の事業年度も活動を継続することになりました。

プロジェクト「新型コロナウイルス感染症と新型コロナ感染症の後遺症」を通じ、パンデミックの経過に照らして、社会保障機関が増大するリハビリへのニーズに対し最も効果的に貢献できる方法について考察し、ナレッジ向上を目指します。

[www.issa.int/wg-rehabilitation](http://www.issa.int/wg-rehabilitation)

## 保健医療技術委員会

ISSAの医療・疾病保険技術委員会は、医療や疾病保険の分野に関する新たなナレッジの創出と共有に積極的な役割を果たしました。

同委員会は、医療保険適用の政策に関する新ガイドライン、医療保険と介護に関するウェビナーの開催、ISSAの主要なイベントでの議論などに貢献しました。

[www.issa.int/tc-health](http://www.issa.int/tc-health)

## 国際パートナーシップ

ISSAは、国際労働機関や世界保健機関、経済協力開発機構、欧州委員会などの世界各地のパートナーと密接に協力して保健医療および介護に関する課題に取り組んでいます。



# 06 人工知能を賢く利用する

人工知能 (AI) は昨年の主な流行語の一つであり、世界最大級のハイテク企業が最高のツールを提供しようと競い合っています。AIは社会保障にとって莫大な機会である一方、リスクでもあります。社会保障機関はAIを賢く利用していかなくてはなりません。



人工知能は不可欠です。遅かれ早かれ、すべての社会保障機関は何らかの形でAIを活用していくこととなります。ISSAは、会員機関がこの強力でありながら課題の多いツールを活用する動きを支援することを優先課題と定めました。そのため、AIソリューションを構築する複雑な作業を解析し、会員がその仕組みや活用方法を理解できるよう支援していきます。AIシステムの構築方法に関するナレッジを増やし広めるとともに、その応用例や課題について経験を共有することで、ISSAは会員機関がこの技術の活用に取り組むことを支援しています。

AIは、社会保障機関がサービスを提供し、戦略や運営上の決定を行う方法を急速に変革しています。私たちの学び方、働き方、生き方も変えていくでしょう。社会保障サービス提供の質を向上させ、能力を拡大することもできます。反対に、国民を排除し、保障を最も必要としている人々に届けないという重大なミスを犯すリスクも秘めています。そのため、AIの仕組みと安全に活用する方法を理解することは極めて重要です。AIにすべてを任せることはできません。人間の監視が必要であり、重要な決定は人間が行わなければなりません。

会員からこれらの課題を解析する支援を要請する声が寄せられたため、ISSAの情報通信技術委員会はこれらの取り組みに積極的に関わっています。2022年10月の世界社会保障フォーラムのイノベーションゾーンでAIの実演が行われ、AIに関する一連のウェビナーも開催しており、また2024年に計画されている第17回ISSA社会保障におけるICT国際カンファレンスの重点項目になることが決まっています。ISSAのコラボラティブ・イノベーションハブでもAIプロジェクトが議題になっています。

## チャットボットの事例

2022年12月に、ISSAは分析「社会保障機関における人工知能：知的なチャットボットの事例」を発表しました。世界では、政府機関の約4分の1がチャットボットを利用しており、この記事はベルギー、フィンランド、ドイツ、マレーシアの事例をもとに書かれています。

[www.issa.int/analysis/ai](http://www.issa.int/analysis/ai)

## ウェビナーシリーズ

2022年11月に、ISSAは新しいAIウェビナーシリーズを発表しました。国連大学政策主導型電子ガバナンスに関するオペレーティング・ユニット(UNU-EGOV)は重要なパートナーです。このシリーズは、サービス提供の自動化、医療費請求の処理、データパターンの特定、意思決定プロセス、社会的に弱い立場にある人々への適用拡大などへのAIの活用に注目しています。ウェビナーはすべて録画されており、オンラインで視聴することができます。

[www.issa.int/webinars/ai](http://www.issa.int/webinars/ai)

# 世界のISSA

ISSAは、かつてないほどに広い世界中からの会員と地域組織のネットワークを擁しています。

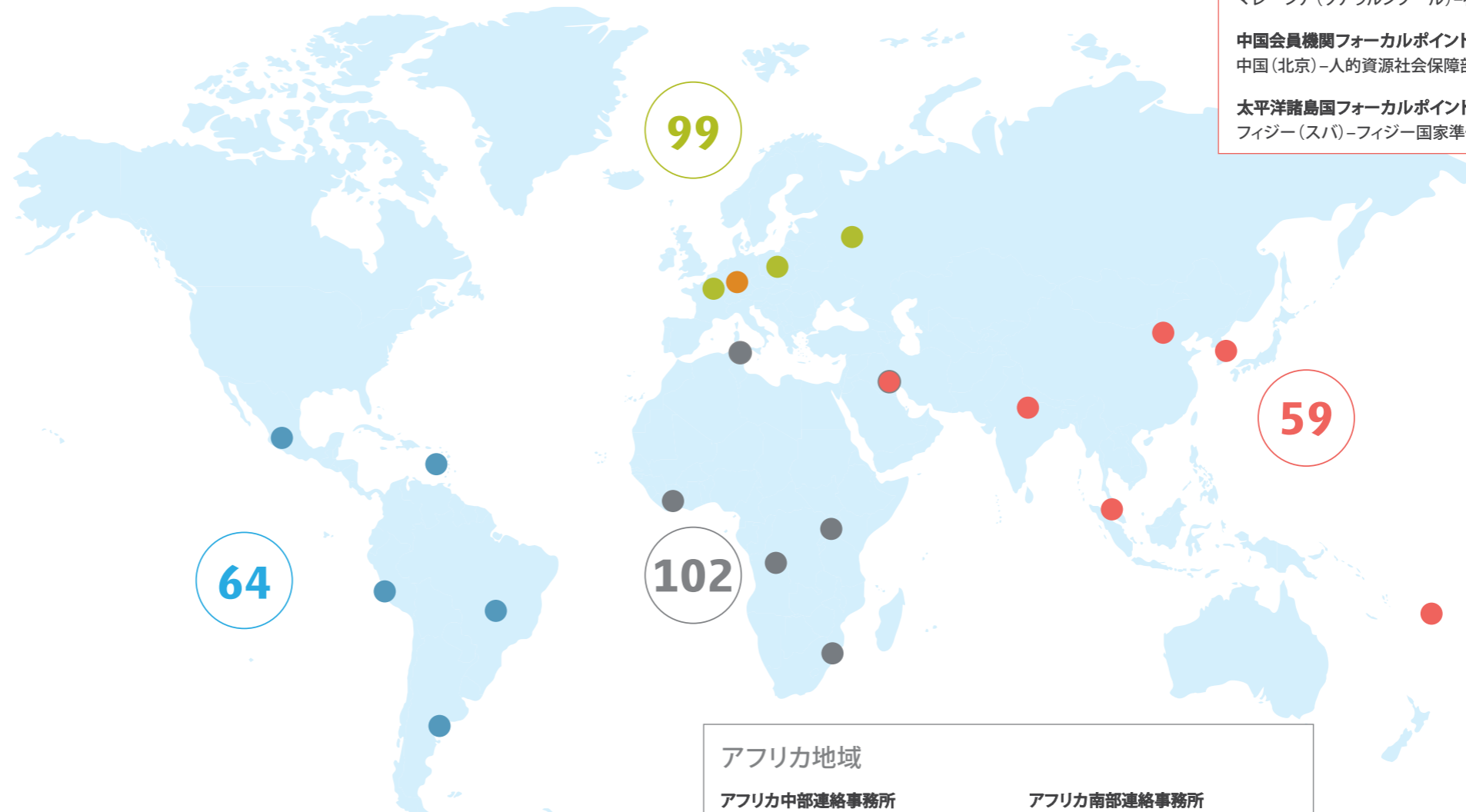
163 国 の 324 の 会 員 機 関 に サ ー ビ ス を 提 供 す る た め 、 ISSA は 19 の フォーカルポイントと連絡事務所のネットワークを開設しました。それぞれが ISSA の優先項目や活動の実施をサポートし、担当地域の会員機関特有のニーズや関心分野に対応しています。

アンデス諸国連絡事務所はデラママジステリアルからペルーの標準年金機関 (ONP) に移転しました。また、アフリカ東部連絡事務所はウガンダの国民社会保障基金がホスト機関となりました。優れた社会保障の推進にお力添えをいただいている両機関並びにすべてのホスト機関に感謝いたします。

**ISSA事務局**  
スイス(ジュネーブ)

**ヨーロッパ地域**  
ISSAヨーロッパネットワーク  
ポーランド(ワルシャワ) - 社会保険機構  
ユーラシア連絡事務所  
ロシア連邦(モスクワ) - ロシア連邦年金基金  
フランス語圏諸国フォーカルポイント  
フランス(パリ) - フランス語圏ISSA会員機関調整委員会

**アジア太平洋地域**  
アラブ諸国連絡事務所  
クウェート(クウェート) - 社会保険機構  
東アジア連絡事務所  
大韓民国(ソウル) - 国民医療保険公団  
南アジア連絡事務所  
インド(ニューデリー) - 従業員国家保険公社  
東南アジア連絡事務所  
マレーシア(クアラルンプール) - 社会保障機関  
中国会員機関フォーカルポイント  
中国(北京) - 人的資源社会保障部  
太平洋諸島国フォーカルポイント  
フィジー(スバ) - フィジー国家準備基金



**南北アメリカ地域**  
アンデス諸国連絡事務所  
ペルー(リマ) - 標準年金機関  
英語圏カリブ諸国フォーカルポイント  
セントビンセント及びグレナディーン諸島(キングスタウン) - セントビンセント及びグレナディーン諸島国民社会保障機関  
北中米連絡事務所  
メキシコ(メキシコシティ) - 国家被用者社会保障・社会サービス機関  
南米コーノスール連絡事務所  
アルゼンチン(ブエノスアイレス) - 国民社会保障機関  
ポルトガル語圏諸国フォーカルポイント  
ブラジル(ブラジリア) - 国家社会保障院

**アフリカ地域**  
アフリカ中部連絡事務所  
コンゴ民主共和国(キンシャサ) - 国民社会保障基金  
アフリカ南部連絡事務所  
エスワティニ(マンジニ) - エスワティニ国民準備基金  
アフリカ東部連絡事務所  
ウガンダ(カンバラ) - 国民社会保障基金  
アフリカ西部連絡事務所  
コートジボワール(アビジャン) - 国民社会保障基金  
アフリカ北部連絡事務所  
チュニジア(チュニス) - 国家社会保障基金

**163か国  
324会員機関**

# グローバルな舞台におけるISSA

国連の持続可能な開発目標に沿って、すべての人に社会保護を提供することは国際社会の野望です。この目的を果たすために、社会保障の管理、運営に関するISSAの知見や視点がこれまでにないほど求められています。政策と遂行能力が国際レベルで結びつくことが望ましく、社会保障機関が自国で議論する際にも役立ちます。

## グローバルな声

163の国々から324の社会保障機関を会員に持つISSAは、国際レベルでも貴重な声であり、パートナーとしても高く評価されています。ISSAは優れた社会保障の運営と提供を推進し、拠出制社会保障の役割を強調しています。



「不確実性、危機、不平等の拡大、根強い社会的保護の格差に直面している今、すべての人のために社会保障を確保する努力を倍加しなければなりません。」

2023年6月6日、スイスのジュネーブで開催されたILO総会で発言するISSAマルセロ・アピラミア・カエタノ事務総長

## ハイライト

**国際労働機関(ILO):** 協会の最も緊密で重要なパートナーとの国際レベルでの協調をさらに推進し、強化しました。特に、ILO/ISSAの共同数理サービスプラットフォームの開発、データ収集・交換の分野および能力開発活動においてさらなる進展がありました。またISSAは、ILOによる社会保障条約および勧告の批准キャンペーンを支援しました。

**G20:** ISSAはG20の雇用作業部会の一員であり、定期的にG20の労働雇用大臣会合に出席しています。ISSAは、インドが議長国を務めた2023年のG20において、プラットフォームワーカー・ギグワーカーと社会保障、および社会保障の資金調達に関する2つの報告書を通じてナレッジを提供するなど、非常に積極的に活動しました。これらの報告書はILOおよびOECDと共同で作成されました。

以下に、ISSAが関与している主な国際・地域機関およびプラットフォームのうち、昨年重要な活動があったものをご紹介します。



## 国際的なプラットフォーム

**社会正義のためのグローバル連合:** ISSAは、「社会正義のためのグローバル連合」への支援を表明しました。これは、普遍的社会的保護の推進を含む、強力で持続可能かつインクルーシブな開発を促進するために主要な関係者の参加を呼びかける、ILOによる取り組みです。

**USP2030:** 「普遍的社会的保護のためのグローバル・パートナーシップ (USP2030)」は、2030年までに全ての人に社会的保護を提供することを目標とする呼びかけで、ISSAはこの連携に運営面で貢献しています。

**SPIAC-B:** 社会保障機関間協力委員会 (SPIAC-B) は、国連、その他の国際機関および二国間パートナーシップの下にある諸機関の調整組織です。ISSAはこの委員会において社会保障機関を代表しています。

**BRICS:** ブラジル、ロシア連邦、インド、中国および南アフリカ(BRICS)は、社会保障で緊密な連携を築いています。ISSAはILOとともに社会保障に関する仮想連絡事務所を運営しており、雇用作業部会および労働雇用大臣会合に貢献しています。

## 国際機関

**ILO:** ILOの後援のもとISSAが1927年に設立されて以来、ILOは国際レベルでISSAの最も緊密なパートナーです。ILOとともに、政策、運営、提供において総合的なアプローチを確保しています。

**OECD:** ISSAはOECDと緊密な協力関係にあり、社会政策および保健医療の作業部会に参加しています。またOECDは、2022年10月の世界社会保障フォーラムを含め、ISSAのウェビナーやイベントに定期的に貢献しています。

**WHO:** 世界保健機関は密接なパートナーであり、ISSAの中心的な優先課題である保健医療、介護およびリハビリテーションに関連するISSAの活動に貢献しています。ISSAはWHO世界リハビリテーション同盟(WRA)の正会員です。

**UNU-EGOV:** ISSAは、国連大学政策主導型電子ガバナンスに関するオペレーティング・ユニット(UNU-EGOV)とのパートナーシップのもと、社会保障のデジタル化の様々な側面にスポットライトを当て、新たなナレッジをもたらしました。

**ITU:** ISSAは、国際電気通信連合(ITU)とも協働して社会保障のための情報通信技術(ICT)の役割を担っており、2023年3月の世界情報社会サミット(W SIS)フォーラムにも貢献しました。

## 地域機関

**アフリカ地域:** ISSAはアフリカ連合と緊密な連携を築いており、2023年5月にコートジボワールで開催されたアフリカ地域社会保障フォーラムでのサミットを共催しました。サミットでは、アフリカ大陸から政府高官や地域機関の代表が一堂に会しました。

**南北アメリカ地域:** 南北アメリカ地域においては、ISSAは米州社会保障会議(CISS)、イベロアメリカ社会保障機構(OISS)、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)、およびカリブ共同体(CARICOM)と密接に連携しています。また、米州開発銀行(IDB)とも新たな協力パートナーシップを締結しました。

**アジア太平洋地域:** ISSAは、国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)およびASEAN社会保障協会(ASSA)と緊密に連携しており、2022年7月にインドネシアのバリ島で開催されたASSAハイレベル会合に貢献しました。

**ヨーロッパ地域:** 近年、欧州委員会と緊密な対話が築かれています。2023年2月に、EUにおける社会的保護と福祉国家の将来に関するハイレベル・グループが報告書を発表し、ISSAは発表イベントの事業に貢献しました。

**言語共同体:** ISSAは、フランコフォニー国際機関(OIF)やポルトガル語諸国共同体(CPLP)との協力関係を強化しており、これらの言語共同体内の会員機関のためのISSAフォーカルポイントと密接に連携しています。



# 07 アフリカ地域社会保障フォーラム

2023～2025年の事業年度最初の地域フォーラムは、2023年5月17日～19日にコートジボワールのアビジャンで開催されました。フォーラムのハイライトは、ISSAグッドプラクティス賞と初めてのISSAイノベーション特別賞の表彰でした。

## 数字で見るアフリカ地域社会保障フォーラム

**500人**  
参加者

**128**  
機関

**51**  
か国

Regional Social  
Security Forum  
**AFRICA2023**  
Abidjan, Côte d'Ivoire, 17-19 May 2023



主催機関:



アフリカ地域社会保障フォーラム(アフリカ地域フォーラム)は、500人を超える登録参加者があり、重要なマイルストーンとなりました。アフリカ地域フォーラムでは、新しいISSA報告書「社会保障の進展と動向ーアフリカ2023」を枠組みとし、ISSAの2023~2025年の事業年度の優先項目に関連する主な課題が取り上げられました。

アフリカでは4人に1人ほどしか医療保険の適用や老齢給付を受けておらず、社会保障の拡大が重要な課題です。同時に報告書は、多くの国で政府と社会保障機関の両方が近年、社会的保護の適用拡大を加速させるために重要な一歩を踏み出したことを示しています。

アフリカ地域フォーラムは、2023年のISSAアフリカ地域グッドプラクティス賞の受賞機関を含め、この分野におけるグッドプラクティスの事例をいくつか紹介する機会にもなりました。

南アフリカ社会開発省が、子ども手当と、弱い立場にある子どもたちへの社会保障適用の漸次的拡大の中での役割に対してグッドプラクティス賞を受賞しました。

アフリカ地域フォーラムは、より良い社会保障のためのトランスフォーメーション、イノベーションおよびリーダーシップに焦点を当てました。全体会議と少人数の対話型セッションを組み合わせたことで、ISSA会員機関がバラエティに富んだグッドプラクティスを発表し議論する機会が生まれ、社会保障における卓越性とイノベーションのための主要な成功要因となりました。初めてのISSAイノベーション特別賞は、電子医療記録に取り組んだ全国被雇用者社会保険基金(CNAS)に贈られました。

## アフリカ連合とのサミット

フォーラムのハイライトは地域社会保障サミットでした。コートジボワール、エジプト、ギニア、南アフリカ、南スーダン、ウガンダの各国政府とハイレベル代表、アフリカ連合および国際労働機関(ILO)が集まりました。サミットはアフリカ連合とのパートナーシップで開催され、国連の持続可能な開発のための2030アジェンダに沿って普遍的社会的保護を達成するための戦略に焦点を当てました。





## イノベーション特別賞

初めての ISSA イノベーション特別賞はアフリカ地域社会保障フォーラムにおいて表彰されました。この新たな賞は、2023~2025年の ISSA グッドプラクティス賞コンテストの一環として設置されました。

**受賞機関:** アルジェリア被用者社会保障基金

**グッドプラクティス:** 電子医療記録



## グッドプラクティス賞

ISSAアフリカ地域グッドプラクティス賞コンテスト2023には、30か国の46の機関から過去最大の138件のエントリーがありました。

**受賞機関:** 南アフリカ社会開発省

**グッドプラクティス:** 弱い立場にある子どもたちへの社会保障適用の漸次的拡大—南アフリカの子ども手当



## 優良賞

優良賞はカメルーン、コートジボワール、モロッコおよびザンビアの5つの社会保障機関に授与されました。優良賞はISSA 認証プログラムの下で授与され、社会保障運営に関するISSA ガイドラインを実践して成果を上げたことを示す国際認証です。



## キャンパスへの回帰

# 08 ISSAディプロマ コースおよび 修士課程コース

2022年半ばから2023年半ばにかけて、ISSAのディプロマコースはオンラインから対面に移行し、まったく新しい国際的な社会保障の修士課程が設置されました。

ディプロマコースは、国際的な環境の中で外国からの仲間とともに社会保障実務の主な分野に関する知識や技能を習得するユニークな機会を提供します。ISSAガイドラインを基礎とするコースは、ISSA会員機関の職員のみを対象としています。コースを修了した受講者には、価値のある専門家としての修了証書が授与されます。

2020年に新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行が発生した際、ISSAはトレーニングパートナーと緊密に連携しオンラインコースを開設しました。この取り組みは成功し、受講者からはコースと仕事を両立できる柔軟性が好評を得ました。同時に、受講者たちを対面コースに再び迎えられたことも嬉しく思います。



## ディプロマコースのトレーニングパートナー

### フランス国立社会保障 学校 (EN3S) フランス語

フランス国立社会保障学校 (École nationale supérieure de sécurité sociale - EN3S) はフランス語でコースを開催しています。

2022年はオンラインと対面を組み合わせたコースを提供し、2023年はフランスのパリで全コースが対面で実施されます。

[www.issa.int/diploma](http://www.issa.int/diploma)

### ILOトレーニング センター (ITCILO) 英語

国際労働機関の国際トレーニングセンター (ITCILO) は英語でコースを開催しています。

2023年5月に、ITCILOは世界中から受講者を集め、イタリアのトリノのキャンパスにおいて1週間にわたり7つのコースを並行して実施しました。

### ムハンナ財団 アラビア語

ムハンナ財団はアラビア語でコースを開催しています。

2022年はeラーニングとしてコースを実施しました。2023年には、下半期に6つのコースをヨルダンのアンマンとオマーンのマスカットで開催すると発表しました。



## 国際的な社会保障の修士課程

この一年間では、ボルドー政治学院およびフォーラム研究所 (Egis社)とのパートナーシップによる、公共部門のパフォーマンス管理および国際的な社会保障の社会人向け修士課程コースが新設されるという嬉しい展開がありました。

新しい修士課程コースについては2022年10月にモロッコで開催された世界社会保障フォーラムで発表され、高い関心を集めました。2023年上半期に、ISSAはパートナーとともに一連のウェビナーを開催し、プログラムを発表して説明しました。

プログラムの全課程は4つの独立学習ブロックに分かれており、2年間で履修します。ほとんどの授業はオンラインで行われますが、各ブロックで対面セッションも実施されます。

### 修士課程コースの初授業

初めての公共部門のパフォーマンス管理の社会人向け修士課程コースはフランス語で行われ、2023年9月に開講します。

[www.issa.int/master](http://www.issa.int/master)

# 09 予防とビジョンゼロに積極的に取り組んだ1年間

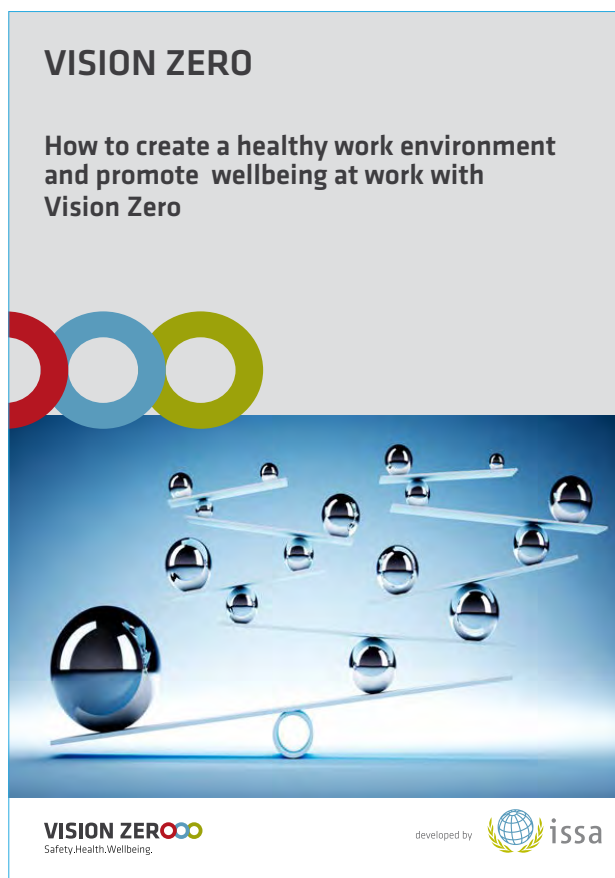
ISSAの予防部門にとっては活気に満ちた1年になり、ビジョンゼロ戦略に向けて新しい取り組みも行いました。主な進展としては、職場でのウェルビーイング、ウェビナーシリーズ、ビジョンゼロトレーニングと第23回労働安全衛生世界会議2023の準備などがあります。

ISSAの予防特別委員会は職業上の安全衛生を扱う母体であり、特定の分野や業界をカバーする14の国際予防部門によってサポートされています。予防特別委員会は、事故、疾病、災害のない労働環境を促進するために2017年に開始されたビジョンゼロキャンペーンの成功の一翼も担っています。それ以降、ビジョンゼロは戦略へと進化を遂げ、企業や機関、政府、国際団体も積極的に活用しています。以下に、直近12か月の活動のハイライトを一部ご紹介します。

[www.visionzero.global](http://www.visionzero.global)

## ウェルビーイング・ガイド

新しいビジョンゼロガイドを活用して健全な労働環境を創出し、職場でのウェルビーイングを推進する方法を、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語で公開しました。



## 労働安全衛生について語ろう

ISSAの予防特別委員会が開催して大好評を得たウェビナーシリーズ「労働安全衛生について語ろう」では、世界各国の安全に関する専門家を集めて、今日の労働安全衛生の課題について議論を行いました。

## すべての人のためのビジョンゼロ

安全・健康・ウェルビーイングのためのグローバルレイニシアチブ@EXPO2025&BEYOND (GISHW) は、ビジョンゼロ・サミット・ジャパン2022での東京宣言を受け継ぎ、「すべての人のためのビジョンゼロ」の目標と決意を促進しています。

## 認定トレーニング

ビジョンゼロ認定トレーニングは、イギリス労働安全衛生協会 (IOSH)とのパートナーシップにより強化され、専用のウェビナーを通じて宣伝されました。

## EUにおけるビジョンゼロ

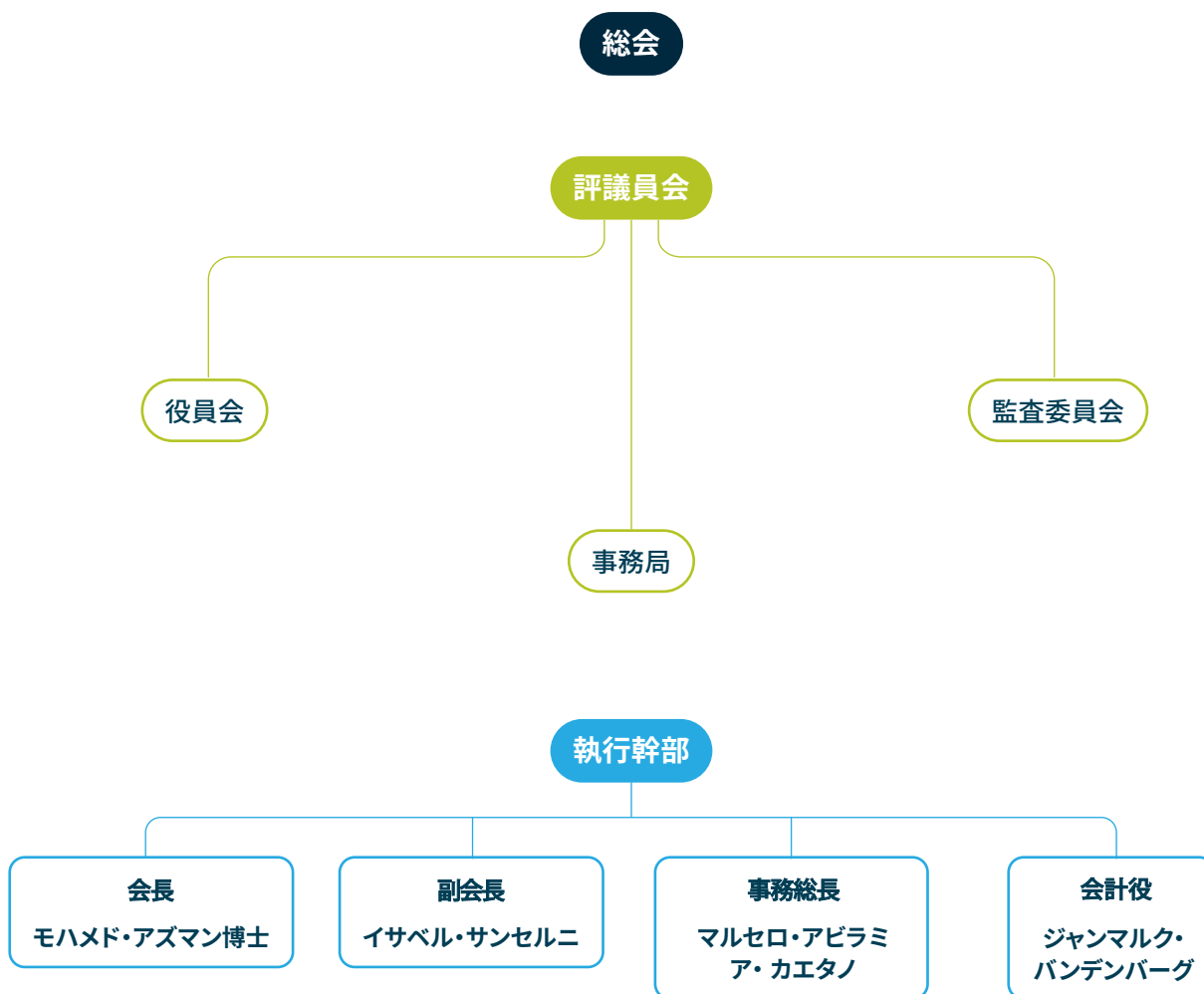
ビジョンゼロは、2023年5月15日～16日にスウェーデンのストックホルムで開催された欧州連合 (EU) の労働安全衛生サミットの議題に取り上げられました。EUは、ビジョンゼロを当該分野の政策の中心に据えました。

## 環境ガイド

「7つのゴールデンルール環境と私たちの未来を守る—企業、被用者、経営者のためのガイド」を、英語、フランス語、ドイツ語、ポーランド語、スペイン語で公開しました。



# ISSAの組織体制とガバナンス



新たな3年間の事業年度、新たなリーダーシップ

# ISSAのナレッジ

## ウェブサイト

ウェブサイトは引き続き、ISSA のナレッジやプロダクトおよびサービスにアクセスする主なゲートウェイとなります。閲覧しやすいようウェブサイトの構成を一部調整するとともに、新しい修士課程コースとコラボラティブ・イノベーションハブに関するページも追加しました。

[www.issa.int](http://www.issa.int)

## 出版物・記事

多岐にわたる技術報告書を、ISSA会員限定でご利用いただけるようになりました。ウェブサイトの刊行物のセクションに収録されています。なお、基幹報告書はより広く一般に公開しています。また、ISSAは社会保障の主な展開に関する分析記事を定期的に発行しています。

[www.issa.int/publications](http://www.issa.int/publications)

[www.issa.int/analysis](http://www.issa.int/analysis)

## ガイドライン

ISSA ガイドラインは国際的に認められている社会保障運営の規格を説明しています。既刊の13のガイドラインに加えて、2022年10月には人材管理および社会保障システムの継続と復旧力に関する新ガイドラインが出版されました。

[www.issa.int/guidelines](http://www.issa.int/guidelines)

## グッドプラクティス

オンラインのISSAグッドプラクティス・データベースでは、約1,450件のグッドプラクティスを検索し、利用することができます。これはISSA会員機関による、会員機関のためのグッドプラクティスを収集したユニークで専用の情報源であり、特に革新的なグッドプラクティスに焦点を絞っています。

[www.issa.int/gp](http://www.issa.int/gp)

## カントリープロフィール

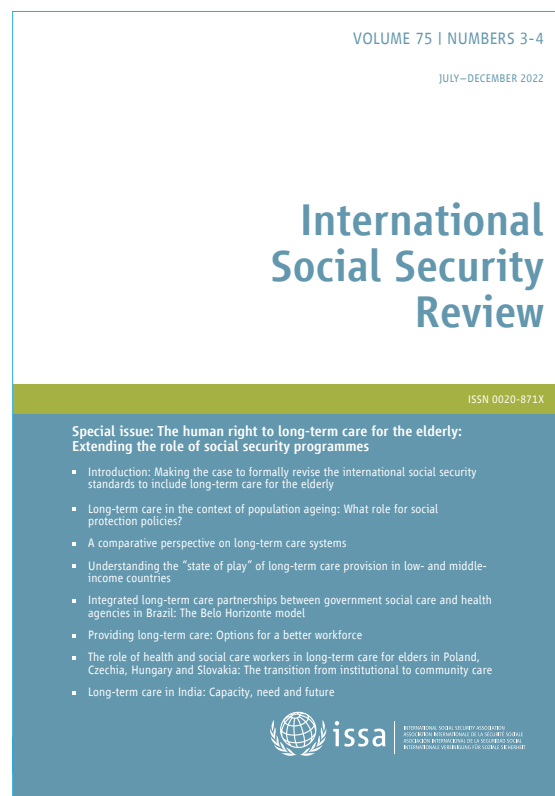
オンラインのISSAカントリープロフィールは、184の国と地域における社会保障の制度や事業の概要を閲覧、比較できる構成になっています。ISSAはこのオンラインデータベースのアクセスと可用性を改善するために、さらなる開発を進めています。

[www.issa.int/country-profiles](http://www.issa.int/country-profiles)

## 国際社会保障レビュー

1948年に創刊された国際社会保障レビュー(ISSR)は社会保障分野における世界的に重要な刊行物で、四半期ごとに出版されています。ISSAの会員はこのレビューを無料で閲覧できます。

[www.issa.int/review](http://www.issa.int/review)





国際社会保障協会  
International Social Security Association  
Route des Morillons 4  
Case postale 1  
CH-1211 Geneva 22  
Switzerland

[www.issa.int](http://www.issa.int)